

マップルの技術力・商品開発力を結集

「ラボ」スタイルで公開開始！

## 株式会社マップルの研究開発サイト「マップルラボ」を公開 まず第一弾として Mapbox Vector Tile (MVT) 形式の 地図データを公開、今後デジタル地図の新たな可能性を追求

～従来の地図 ASP サービス等に加え、オープンプラットフォーム向けも開発～

株式会社昭文社ホールディングス(本社:千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード:9475)とその子会社である株式会社マップル(本社:千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、以下マップル)は、デジタル地図サービスの認知拡大を目的として、研究開発サイト「マップルラボ」をこの7月より開設し、第一弾として近年注目の地図プラットフォーム **Mapbox GL JS** で表示可能な **MVT 形式** のサンプル地図(ベクトルデータ)を公開いたしましたことをお知らせいたします。

マップルおよび昭文社グループは、この「マップルラボ」(<https://mapple.com/labs/>)を通じて今後、デジタル地図の新たな可能性を追求してまいります。



<「マップルラボ」第一弾として公開した地図画面(イメージ)>

### )) マップルラボ公開の目的 ((

このたび、マップルが整備している地図データベースや技術を、より多くの顧客に認知していただくことを目的として「マップルラボ」を公開いたしました。マップルラボでは、マップルの持つ技術を活用した様々な機能、開発中の地図データベースなどを公開し、その有用性や可能性をお確かめいただくことができます。

まず、第一弾として開発中の **MAPPLE** のベクトルタイルを公開いたしました。この MAPPLE のベクトルタイルは、近年話題になっている高性能な地図プラットフォームである Mapbox GL JS で表示できる地図データで、マップルの地図データベースを用いて開発しております。今回は開発中のもののうち、小縮尺の地図データベースについて、マップルラボでご覧いただけるようになりました。

マップルの小縮尺の地図データベースは、密集したエリアであっても、主要道路や行政境界線が重ならないように形状を転位させていたり、重要な地物を優先して表示するなど、見た目がわかりやすいことが大きな特長です。

また、MAPPLE のベクトルタイルは、その名のとおりベクトル形式の地図データとなっており、ラスター（画像）形式とは異なり、見栄えの変更やデータの重ね合わせが容易に可能で、今後の地図の活用範囲、利用シーンを拡張してくれる可能性を秘めています。

ベクトル形式の地図データの想定活用事例としては、行政機関が公開しているオープンデータなどとの重ね合わせがあり、データによる地図意匠の変更が容易にできることから、**GIS** による分析や、**データビジュアライゼーション**の有効な手段のひとつとなります。また、当社グループの出版物で採用されている**地図意匠**と同様な見栄えをデジタルデバイスで再現できるなど、これまでになかった地図表現が可能になります。



＜小縮尺地図データベースを活用した「MAPPLEのベクトルタイル」の例＞

マップルはこれからも、デジタル地図サービスの改良、開発に努め、新たなニーズにお応えできるよう、新技術をご提供してまいります。マップルラボの今後に、どうぞご期待ください。

## )) 運営会社概要 ((

サイト URL : <https://mapple.com/labs/>

会社名 : 株式会社マップル (英語名 : MAPPLE, Inc.)

設立 : 2019年10月1日

本店 : 東京都千代田区麹町3丁目1番地

TEL : 03-3556-8166 / FAX : 03-3556-8881

資本金 : 100 百万円

<https://mapple.com/>

## || マップルラボで公開中のデータ・技術等に関するお問い合わせは下記まで

株式会社マップル マップルラボ担当

所在地 : 〒102-8238 東京都千代田区麹町3-1

TEL : 03-3556-8166

Mail : [gis@mapple.co.jp](mailto:gis@mapple.co.jp)